

KALS NEWSLETTER 59

2019年7月

九州アメリカ文学会

事務局 九州大学大学院言語文化研究院内

福岡市西区元岡 744

〒819-0395

ソーシャル・コーディネータ

九州大学 高橋 勤

私的な話で恐縮だが、私がアメリカの大学院で学んでいた頃、週末のパーティの世話係を「ソーシャル・コーディネータ」と呼んでいた。私はしばしばそのソーシャル・コーディネータを任され、それを楽しんだのである。当時在籍したのは比較文学科で世界中から玉石混淆というか、(ある先生に言わせると) ガラクタの山のような学生が集まっていた。それが週末のパーティとなると一転、一人ひとりが豊かな個性を発揮し、パーティが佳境に入るとダンスを楽しんだのである。アフリカ人サリフの気のいいスウィング、妊娠中のインド人スミータ、カナダ人のプレイボーイミッシェル、離婚調停中のロザンヌ、そして子供を亡くした中国人イーレン・・・。

ペンステートの比較文学科は、その後『比較文学研究』を刊行するデパートメントに昇格し(当時はプログラムであった)優秀な学生を集めるようになったが、私はあの人種の坩堝のような、そしてしたたかなエネルギーに満ちた仲間との大学院生活が限りなく貴重な体験であったように思われるのである。

さて五月の沖縄大会で九州支部の会長を早瀬前会長から引き継ぐことになったが、私にできることは、いや私が最も得意としているのは「ソーシャル・コーディネータ」として、会の運営のお世話役だと考えている。言ってみれば、会の下足番である。大きな改革を断行するのでも、また強力なリーダーシップを発揮するのでもなく、ここ十年ほどの支部会の流れ、安河内、山里、小谷、早瀬の各会長から受け継いだ会の運営を継続し調整していくことであろうと思う。そしてできるだけ多くの地域から、多くの会員に積極的に会の活動に関わってもらえるよう促すことだと考えている。

そうした意味においても、今回の沖縄で支部大会が開催されたことは意義深いことであったと思う。九州支部はより正確に言うと、九州・沖縄支部である。距離的にも、また学術文化においても大きく隔たった沖縄地区は独自の、むしろ国際的に開かれた活動を続けている。沖縄での大会の開催は山里勝己先生が支部会長をされて以来のことであり、旧交を深める意味でも

大切な機会であったと考える。琉球大学の喜納育江先生、山城新先生、小林正臣先生には周到な準備で臨んでいただき、滞りなく大会を開催できたことに感謝したい。また研究発表をされた6名の発表者、シンポジウムのコーディネータの大野瀬津子先生、招聘パネリストの齋藤一先生、そして特別講演の水野尚之先生には大会プログラムの充実にそれぞれが一役を担っていただいた。ここに改めて感謝する次第である。

私のコンピュータのスクリーン上には「コーディネータ」というファイルがある。授業も学会も読書会も食事のメニューも家族の健康も、それに趣味の釣りや謡曲も、このファイルの中に投げ込んである。私は所詮世話役であり、ワキ役が似合っている。

九州アメリカ文学会第65回大会シンポジウム報告

九州工業大学 大野 瀬津子

今回は筑波大学から齋藤一氏を招聘し、KALSからは高田とも子氏と大野が参加して「<戦前>知識人の Warscape」というタイトルのもと、シンポジウムを行った。第一次世界大戦前夜になぞらえられる緊迫した今日の国内外の情勢に鑑みると、戦争は決して過ぎ去った過去の話ではない。「<戦前>の思考」を提唱した柄谷行人に倣い、今ここを<戦前>とみなすことで、戦争を繰り返さないための私たち知識人の役割について切迫性をもって考えよう、というのがテーマ設定の意図であった。

大野は南北戦争を舞台とした Benjamin Wood の *Fort Lafayette: or, Love and Secession* (1862) と Frederic Wadsworth Loring の *Two College Friends* (1871) を考察した。二つの内戦小説から、抽象的な理念に囚われるあまり、すぐそこで起こっている理不尽な出来事や身近な人の気持ちは見過ごしてしまうインテリの姿を炙り出すとともに、抽象的な概念に向かいがちな私たち研究者もまた、その内向性が暴力と手を組んでしまうことのないよう、具体的な現実に根ざして思索する必要がある、と結んだ。

高田氏は、亡命ユダヤ人ジャーナリスト、ウィリアム・L・ローレンスが1945年に連載した原爆関連記事、およびこの連載に基づく1946年出版の単行本『ゼロの暁』を取り上げた。まず神の力として原子力を表象するこれらのテキストが、ファシズムへの対抗を目論む当時のアメリカ政府が欲望した核の物語と合致する点を確認した上で、その分かりやすいレトリックがアメリカの選民思想を内包するとともに、日常生活と地続きなものとして核の脅威を喚起することになった可能性を論じた。最後に高田氏は、ローレンスの報道が代表する支配的な核の言説から周縁化されてきた複数の物語に目を向ける重要性を強調した。

齋藤氏は、英文学者・評論家中野好夫が携わったエドワード・ギボンの『ローマ帝国盛衰史』の翻訳を取り上げた。最初に第一巻(1976)の「あとがき」を手掛かりに、中野を翻訳へと駆り立てたのが、アメリカ合衆国の東アジアへの軍事介入に対する反対運動への関心にあったことを明らかにした。また木下順二の考えに同意する形で、さらに中野が

イギリス人による大英帝国批判の紹介を大日本帝国とその戦争の正当化に流用していたという自説を引きつつ、翻訳を出版した際の中野が自ら加担した大日本帝国のことを意識していた、という読みを提示した。齋藤氏は、戦争に協力した英文学者の責任の取り方のモデルとしてこの翻訳を今日振り返る意義を訴え、話を締めくくった。

全体を通し、＜戦前＞知識人としての私たち文学者の役割とは何か、という問いに答えを出すには至らなかった。しかし少なくとも、考えるヒントとして、知識人と戦争の多様な関係を浮き彫りにすることはできたと思う。また、誰一人アメリカ文学の「キャンオン」を扱わないという変則的なこのシンポが、文学研究とは何かについて再考する契機になれば、とも願っている。実のところ、フロアから総スカンを食らったらどうしよう、と気を揉んでいたのだが、蓋を開けてみれば、時間内に収まりきらないほど次々に建設的な質問やコメントを頂戴した。朝から会場に足を運んで下さった皆様、会場の準備や不測の事態にも親切に対応して下さいました琉球大学の皆様、そして切迫感あふれる研究を共有して下さいましたパネリストのお二方に厚くお礼を申し上げたい。

2018年度九州アメリカ文学賞 結果および講評

福岡大学 高橋 美知子

九州アメリカ文学賞

該当者なし

佳作

毛利優花（西南学院大学大学院 博士前期課程2年）

“Multi-voiced Characters in John Hersey’s *Hiroshima*: Focusing on Two Survivors with Unique Cultural Backgrounds, Mr. Kiyoshi Tanimoto and Father Wilhelm Kleinsorge”

松下紗耶（九州大学大学院 博士後期課程2年）

“Armand and Désirée “Enact” Scenes: Performing Race and Gender in Kate Chopin’s “Désirée’s Baby””

（講評）

本年は2編の応募がありました。ともにユニークな着眼点を持った意欲的な研究でしたが、残念ながら、文学賞の水準に達するには複数の課題があることが審査委員会で指摘されました。しかし、どちらも文学研究者としての素質と将来性を感じさせる論文であったことから、合議の結果、共に佳作といたしました。お二人の今後に期待いたします。応募者には審査員からの詳細なフィードバックを送付しておりますので、ぜひ今回の論文の書き直しに挑戦し、別の形での発表を目指していただきたいと願う次第です。

(お知らせ)

今回より、講評と選考の結果(文学賞・佳作)をニューズレターに記載することとなりました。また、本年度より投稿既定の文字数上限を拡大し、本文、注、引用文献リストを合わせて4000語といたします。さらに本格的な論文の応募が可能となりますので、周囲の学生さんにぜひ応募をお勧めください。

地区だより

<北九州地区>

北九州市立大学 齊藤 園子

北九州地区からは北九州アメリカ文学研究会の活動をご報告いたします。北九州アメリカ文学研究会では次のような活動が行われました。

○第13回研究発表会

日時： 2019年3月2日(土) 14:00~17:00

会場： 北九州市立大学 北方キャンパス

[研究発表1]

題目： 「大連山」におけるスタインベックの死生観と色彩の関わり
——The Terminal of life——

発表者： 久保田 百合子(北九州市立大学大学院修士課程修了)

司会： 上野 立架子(北九州市立大学大学院修士課程修了)

[研究発表2]

題目： イギリス・ゴシック小説の系譜から』
——Never Let Me Go——

発表者： 野崎 昌子(北九州市立大学大学院修士課程修了)

司会： 井上 妙子(アメリカ文学研究者)

上記の研究発表会と合わせて、2019年3月には研究会誌『アメリカ文学』第6号を発行されています。また、今後ですが、8月17日(土)に第14回研究発表会、11月9日(土)に第8回講演会が開催予定です。第8回講演会のご登壇者は、KALS前会長の早瀬博範先生、主題は『アブサロム、アブサロム!』のご予定です。

長年に渡って充実した活動を展開してこられた本研究会について、薬師寺元子現会長にお話を伺いました。本研究会は31年前に英米文学原書講読会として数名で開始され、現在は20数名が、原則、毎週土曜日に会合を持たれています。毎週の会合では、特にアメリカ文学作品を原書でしっかりと精読の上で、自由奔放な議論が交わされています。「文学を通して、知的好奇心を高揚し、魂の洗濯が出来るような、普段着の自然なアメリカ文学

講読会であること」を目指して活動されています。

北九州アメリカ文学研究会へは、一般市民、学部生、院生など、どなたでも歓迎のことです。今後の定期会合、研究発表会、講演会について、KALSの方々にもぜひご参加いただきたいとお話でした。

<鹿児島地区>

鹿児島大学 千代田夏夫

緑蔭にくちなしの花香るころとなりました。千葉義也先生（鹿児島大学名誉教授）は、5回にわたって『南日本新聞』に、「ヘミングウェイ『作品の舞台裏』」と題し、作者は作品にアメリカをどう描いたのかという点を読み解かれました。竹内勝徳先生（鹿児島大学）は『繋がり詩学 近代アメリカの知的独立と〈知のコミュニティ〉の形成』（彩流社）に「劇場文化の政治学—「二つの教会堂」を通して読み解く『信用詐欺師』」を寄稿しておられます。千代田は藤野功一先生編著『アメリカン・モダニズムと大衆文学 時代の欲望／表象をとらえた作家たち』（金星堂）に、「F・スコット・フィッツジェラルドと第一次世界大戦—大衆性・アイロニー・モダニズム」の一章を寄せさせていただきました。ご高覧賜れましたら幸いです。

事務局からのお知らせ

1. 2019年度日本アメリカ文学会第58回全国大会は10月5～6日、宮城県仙台市の東北学院大学で開催されます。
2. 日本英文学会第72回九州支部大会は10月26～27日、熊本県立大学で開催されます。
3. 九州アメリカ文学会第66回大会は2019年5月9～10日、九州大学で開催されます。
4. 2019年12月のサービス提供終了にともない、九州アメリカ文学会のメーリングリストが別のサービスに変更になります。詳細は別項のお知らせをご覧ください。
5. 今年度より学会事務局は九州大学に移ります。

〒819-0395

福岡市西区元岡 744 九州大学大学院言語文化研究院内

九州アメリカ文学会 TEL (092) 802-5733

会費に関する問い合わせは下條恵子(shimojo@flc.kyushu-u.ac.jp)、
会費以外の件に関する問い合わせは岡本太助(okamoto@flc.kyushu-u.ac.jp)
までお願いいたします。

(岡本 太助)

2019年度役員・委員名簿

変更を下線で示す

会 顧	長 問	<u>高橋 勤</u> (九州大) 安河内 英光 山里 勝己 (名桜大) 小谷 耕二 (福岡女子大) <u>早瀬 博範</u> (佐賀大)
事 務 局 幹	長 事	<u>岡本 太助</u> (九州大) <例会担当>坂井 隆 (福岡大) <例会担当> <u>大野 瀬津子</u> (九州工業大) <大会担当> <u>高野 泰志</u> (九州大) <九州アメリカ文学賞担当> <u>銅堂 恵美子</u> (福岡大) <ニュースレター担当> <u>江頭 理江</u> (福岡教育大)
会 監 編 集 委 員 長 本 部 代 議 員	計 査 長 員	<u>下條 恵子</u> (九州大) <u>長岡 真吾</u> (福岡女子大) <u>池田 志郎</u> (熊本大) <u>高橋 勤</u> <u>岡本 太助</u>
本部大会運営委員		<u>渡邊 真理子</u> (西九州大)
本部編集委員 (支部選出)		藤野 功一 (西南学院大)
本部サイト運営委員		<u>高橋 美知子</u> (福岡大)
編 集 委 員		<u>池田 志郎</u> <u>田口誠治</u> (尚綱大) <u>永尾悟</u> (熊本大) <u>楠元実子</u> (熊本高専) Scott Pugh (西南学院大) David Farnell (福岡大) Wayne Arnold (北九州市立大)
地 区 委 員		齊藤 園子 (北九州市立大) 鈴木 繁 (佐賀大) 山田 健太郎 (県立長崎シーボルト大) 池田 志郎 雲 和子 (大分大) 井崎 浩 (宮崎大) 千代田夏夫 (鹿児島大) 喜納 育江 (琉球大)
支部サイト運営委員		藤野 功一

2019年度年間行事予定

- 3月31日(日) 日本アメリカ文学会第58回全国大会発表者応募締切
- 4月上旬 日本アメリカ文学会第58回全国大会応募者選考
- 4月中旬 九州アメリカ文学会第65回大会プログラム発送
- 4月30日(火) 『九州アメリカ文学』60号原稿応募締切
- 5月11日(土) 九州アメリカ文学会第65回大会(琉球大学)
研究発表、総会、講演会、懇親会
- 12日(日) 同上 シンポジウム
- 6月下旬 *KALS NEWSLETTER* 59号発行/配信
- 8月中旬 第1回例会案内配信
- 9月上旬 第1回例会(未定)
- 10月5日(土) 日本アメリカ文学会第58回全国大会(東北学院大学)
- 6日(日) 同上
- 10月26日(土) 日本英文学会第72回九州支部大会(熊本県立大学)
「アメリカ文学部門シンポジウム」
- 27日(日) 同上
- 11月上旬 第2回例会・忘年会の案内配信
- 11月下旬 『九州アメリカ文学』60号発行/発送
KALS NEWSLETTER 60号発行/配信
- 12月上旬 第2回例会(未定)、忘年会
- 2020年
- 1月31日(金) 九州アメリカ文学出版助成金応募締切
- 2月20日(木) 九州アメリカ文学会第66回大会発表者応募締切
- 2月下旬 九州アメリカ文学会役員会・文学賞選考委員会の案内発送
- 2月20日(木) 九州アメリカ文学賞 応募締切
- 3月上旬 九州アメリカ文学会役員会(九州大学)
出版助成金選考/九州アメリカ文学会第66回大会発表者決定
九州アメリカ文学賞選考委員会
- 3月31日(火) 日本アメリカ文学会第59回全国大会発表者応募締切
- 4月上旬 日本アメリカ文学会第59回全国大会応募者選考
- 4月中旬 九州アメリカ文学会第66回大会プログラム発送
- 4月30日(木) 『九州アメリカ文学』61号原稿応募締切
- 5月9日(土) 九州アメリカ文学会第66回大会(九州大学)
総会、九州アメリカ文学賞・出版助成金授賞式、懇親会
- 10日(日) 同上 シンポジウム

重要なお知らせ

● KALS 会員用メーリングリスト変更のお知らせ・ご登録のお願い ●

2016年5月の九州アメリカ文学会総会での承認を受け、会員向けのメーリングリストを運用しておりましたが、現在利用しているサービス（Freeml byGMO）が今年の12月2日で終了となります。そのため、KALS 会員用メーリングリストは、7月中旬より Google が提供するサービスに移行して継続することになりました。

【現行の KALS メーリングリストに登録済みの皆さま】

現在ご登録いただいているメールアドレスを新しいメーリングリストに移行させていただきます。ご自身での手続きは特に必要ございません。移行の際、お手元にお知らせのメールが届きます。

【KALS メーリングリストに未登録の皆さま】

以前は郵送でお届けしていたニューズレターや例会案内ですが、現在はメーリングリストを使っての配信を行なっております。ぜひこの機会にご登録下さい。ご登録いただいたメールアドレスについては事務局で管理いたします。下記のアドレスにメールを送信するだけで簡単にご登録いただけます：

kalsjapan@gmail.com

お送りいただいたメールアドレスを管理者がメーリングリストに登録いたします。その際、お手元にお知らせのメールが届きます。

【新メーリングリストへの移行予定日・その他】

新メーリングリストへの移行は7月中旬を予定しておりますが、作業の都合で前後することがあります。メーリングリストの新アドレスは移行の際にお知らせいたします。現在未登録で移行前にメーリングリストへの登録希望をいただいた方については、現行メーリングリストに登録の上、新メーリングリストへの移行手続きもこちらで行います。なお、現在のメーリングリストは7月31日を目途に閉鎖する予定で、これまでのメールについては事務局のほうでデータを保存いたします。

【メーリングリストに関するお問合せ】

KALS 事務局・メーリングリスト管理者 下條恵子

shimojo@flc.kyushu-u.ac.jp